

環境基本理念

製品と生産で、社会と環境に貢献

環境目標

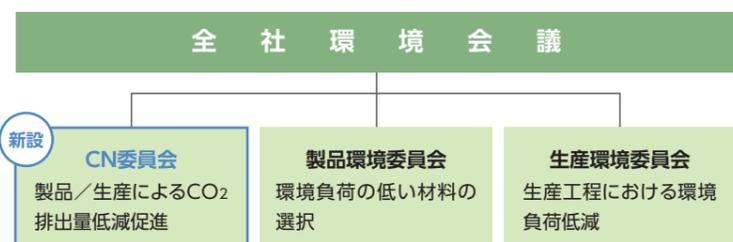
当社では、2035年までにカーボンニュートラル達成を目指す方針を掲げております。その達成に向けて、2024年の目標値を設定し、改善活動を進めております。

	廃棄物排出量	水使用量	CO <sub>2</sub> 排出量	異常・苦情
2024年目標	排出量原単位 国内連結:1.81t/百万個 単体:1.87t/百万個	排出量原単位 国内連結:615m <sup>3</sup> /百万個 単体:595m <sup>3</sup> /百万個	総排出量 連結:66,765t/年 単体:42,005t/年	異常・苦情0件

全社環境保全組織

持続可能な発展を目指し、環境基本理念を実現するために、より実効性のある社内体制に強化しました。特に、カーボンニュートラルに向けた活動の強化を図るために、全社環境会議の直下に、CN<sup>(\*)</sup>委員会を新設し、ヘラス、カエル活動に取り組んでいます。

\*CN:カーボンニュートラル



自然共生

大豊グループでは、環境保全や生物多様性の確保を進め、人と自然が共生する持続可能な社会の構築を目指し、活動に取り組んでいます。



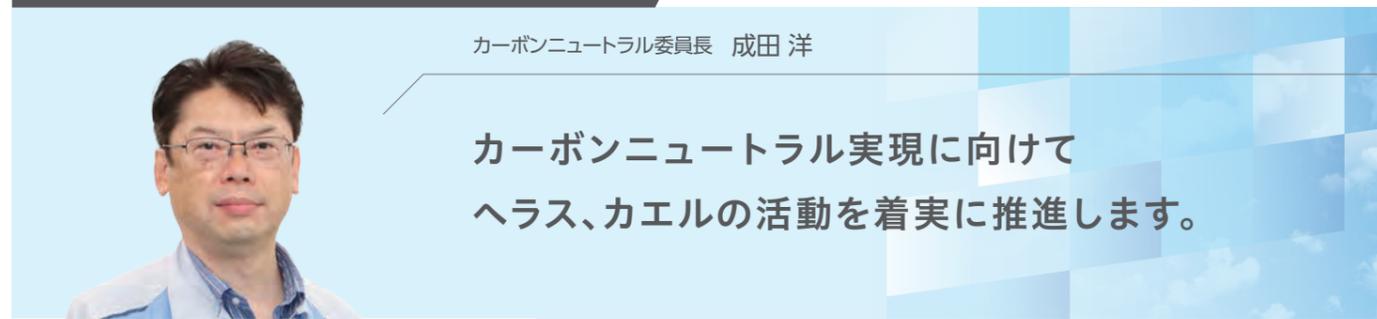
矢並湿地保全活動

愛知県豊田市にある「矢並湿地」はラムサール条約に登録された湿地であり、その希少生物を保護するため、継続的に市や地域の保存会に参加して、除草作業などを行っています。



矢並湿地保全活動

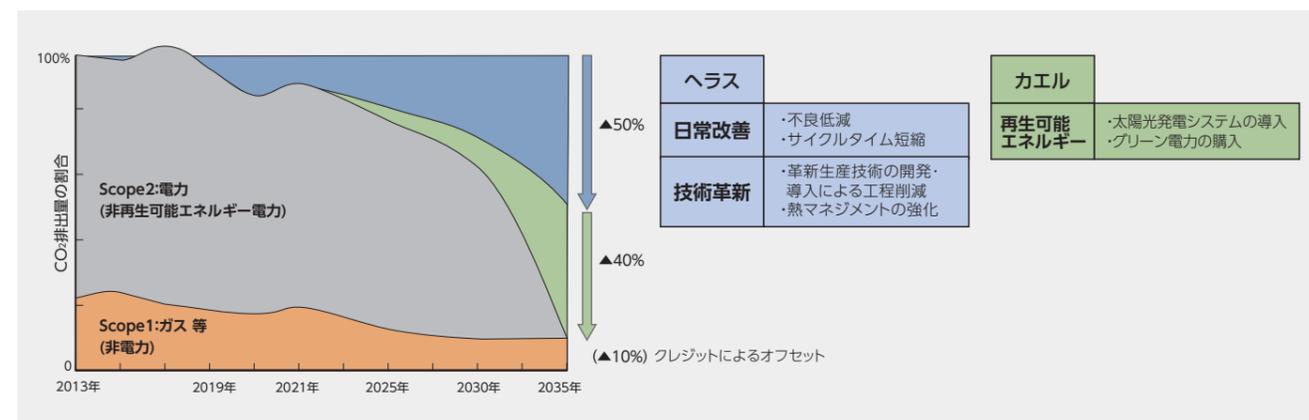
カーボンニュートラルの達成に向けた取り組み



基本的な考え方

当社では、持続可能な社会の実現のため、CO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組み、2035年までに国内工場から排出されるCO<sub>2</sub>(Scope1・2<sup>\*</sup>)の実質ゼロを目指す方針を設定しました。「ヘラス活動」「カエル活動」を軸にカーボンニュートラルの達成に向けた取り組みを推進してまいります。

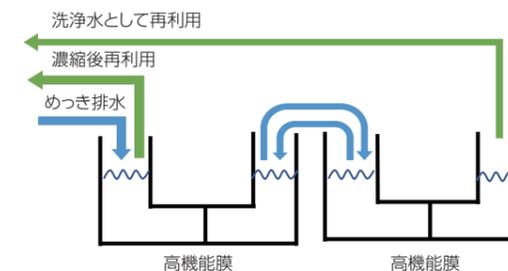
\*Scope1:自社での燃料の使用などによる直接的な排出、Scope2:自社が購入した電気などによる間接的な排出



細谷工場

排水処理システムによるめっき工程排水のゼロエミッション化

めっき工程の排水を、高機能膜を組み合わせた独自の排水処理システムにより、めっき濃縮液と洗浄水に分離し再利用しています。排水処理システムはクローズド化することで、新たな水を使用することなく、めっきラインを稼働させることが出来ます。他にも廃棄物のゼロエミッション化やCO<sub>2</sub>削減にもつながります。2024年には設備を3台に増設し、処理能力の増強を行いました。



廃棄物削減に向けた取り組み

岐阜工場

スラッジ回収装置導入による廃液量低減

クーラントタンク内で、スラッジを含む泡によるオーバーフローを防ぐために、スラッジを含む泡の回収が必要となり、廃液量が増加していました。泡の発生メカニズムを解析し、微細なスラッジを回収するフィルターを設置することで泡の発生を抑制し、廃液量を低減しました。また、回収頻度の低減による、作業効率向上にも繋がりました。



→ 廃液削減比率 ▲54% 約 7t / 台・年の削減